

里古墳の画文帯神獣鏡

さとこふんのがもんたいしんじゅうきょう



文化財愛護シンボルマーク

名称	画文帯神獣鏡	出土地	里古墳(加古川市平荘町里)
別称	神獣鏡、平縁神獣鏡、画文帯同向式神獣鏡、半円方形帯神獣鏡	所在地	加古川市平岡町新在家1224番地の7 加古川総合文化センター博物館
数量	1面	所有者	加古川市教育委員会
寸法	径20.9cm	指定	加古川市指定文化財
重量	1156g	指定分類	考古資料
材質	青銅製	指定名称	画文帯神獣鏡
時代	古墳時代中期 5世紀 (中国南北朝時代)	指定年月日	令和2(2020)年3月12日



画文帯神獣鏡

この画文帯神獣鏡は、平荘町里に所在する里古墳から出土した青銅鏡です。

里古墳は、平成9(1997)年度に発掘調査が行われ、墳丘に葺石や円筒埴輪列をもつ全長約45mの前方後円墳であることがわかりました。また、後円部墳頂部で堅穴式石槨とみられる埋葬施設の一部が確認され、この付近で画文帯神獣鏡が出土しました。

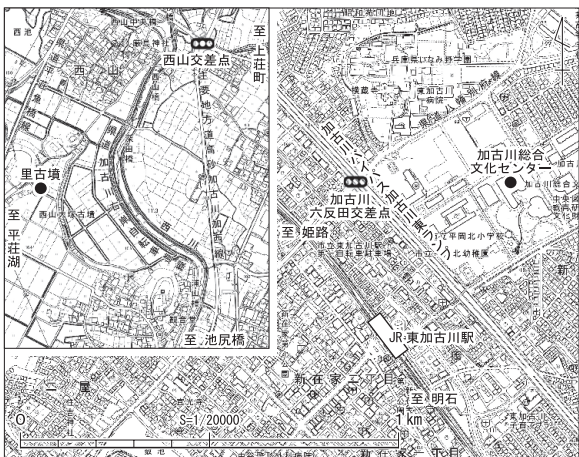
青銅鏡とは、銅に錫や鉛などを加えた合金を高温で溶かし、鋳型に流し込んで製作した鏡のことで、様々な形態や文様のものが存在します。このうち、内区に神仙と霊獣を浮彫りで表現し、外区に細かい浮彫り表現の飛禽走獣からなる文様帯(画文帯)をもつものが画文帯神獣鏡と呼ばれている鏡です。

里古墳出土の画文帯神獣鏡は、鋳上りの状態が悪く、各像は不明瞭となっていますが、内区に西王母、東王父、伯牙、黄帝の四神と乳をめぐる四獣を配し、内区外周に半円方形帯、外区に画文帯と菱雲文帯をめぐらせています。

この鏡は、いわゆる同型鏡群にあたる鏡(原型を同じくする鋳型で鋳造したもの)の一種で、日本の古墳時代中期から後期にかけての古墳から出土することが多いものです。里古墳出土画文帯神獣鏡の同型鏡にはこれまでに26面が確認されており、県内では川西市勝福寺古墳第1号石室から出土しています。



里古墳遠景(南から)



画文帯神獣鏡の各部名称

中国の南北朝時代(5・6世紀)に漢鏡を踏み返すことによって生産されたものとみられ、倭の五王である済・興・武による中国王朝との政治交渉を通じて5世紀後半に日本列島へもたらされたものと考えられています。また、その入手と配布をヤマト政権が一括して行うことによって、各地域社会との関係性を構築していったとみられています。

このように、里古墳出土画文帯神獣鏡は、里古墳の被葬者がヤマト政権と何らかの結びつきをもっていたことを示す資料と考えられ、加古川下流域の古墳時代社会を考えるうえで貴重な資料といえます。

(文、写真/平尾)

●参考文献

「里古墳」山本祐作(『加古川市史』第4巻 加古川市、1996年)

「六朝鏡」車崎正彦(『考古資料大観』第5巻 小学館、2002年)

「中国鏡」上野祥史(『古墳時代の考古学』4 同成社、2013年)

『鏡が語る古代史』岡村秀典 岩波書店(2017年)

●キーワード

里古墳 前方後円墳 葺石 円筒埴輪 堅穴式石槨 画文帯神獣鏡 西王母 東王父 伯牙 黄帝 同型鏡(群) 南北朝時代 漢鏡 踏み返し ヤマト政権 倭の五王 済 興 武

●土地/里古墳(兵庫県加古川市平荘町里)

●所在地/兵庫県加古川市平岡町新在家1224番地の7(保管場所) 加古川総合文化センター博物館

●交通/JR神戸線「東加古川」駅から北へ徒歩10分 車は加古川バイパス「加古川東ランプ」から北東へ500m

編集・発行:加古川市教育委員会 文化財調査研究センター
令和3年3月31日(2021.03.31/1000)